

# 大須賀一雄 武蔵野スケッチ物語

吉祥寺東町  
二丁目にて

no.72

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。



この作品は、吉祥寺東町の路地を彩る桜に魅せられて描いたものである。

桜の季節が来ると、思い出すことがある。それは昭和五十八年三月のこと。当時勤めていた国鉄本社で、国際的映画女優の息子二人を新幹線の指令所に案内したことがあった。案内が終わった時、同行者から「女優が東京駅にいたので行きませんか」と誘われ、まさかと思いつつ彼らと共に駅に向かった。

駅のホームに着くと、一人の女性が大勢の報道陣に囲まれていたが、我々を見つけると足早に近づいてきた。彼女こそ映画「ローマの休日」で一躍名をはせたオードリー・ヘップバーンその人であった。私に近づくと両手を差し出し、私の手を握りながら、息子たちを案内してくれたことに謝意を示してくれたのだ。その時のことは緊張してあまり覚えていないが、透き通るような青い目はとても印象に残っており、彼女と会話できたことは最高の思い出となっている。

(絵と文…大須賀一雄)

## Profile

大須賀一雄  
(おおすか かずお)

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。